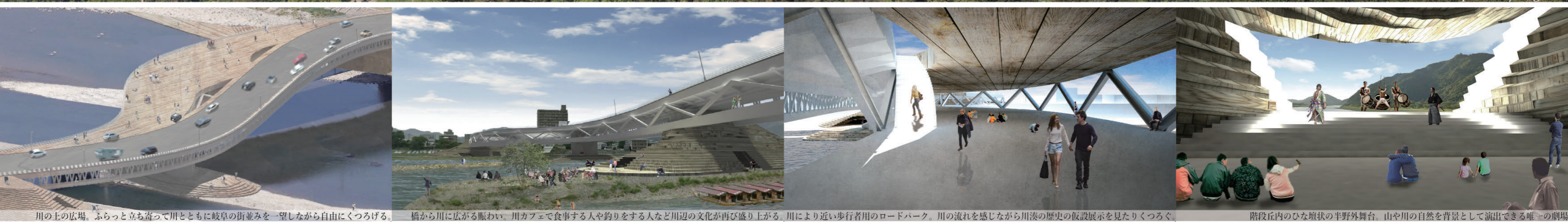




溜まりのある橋

自然を通り過ぎるためだけの場所性のない従来の橋に、多様な固有の溜まりを与えることで、静と動のそれぞれのアクティビティの相互作用を、親水性という共通のファクターでつなぎ、失われた外部空間の賑わいを再興する。都市と自然をつなぐ土木であり、文化や伝統を結節する建築。

photo by sugiura



川の上の広場。ふらっと立ち寄って川とともに岐阜の街並みを一望しながら自由にくつろげる。橋から川に広がる賑わい。川カフェで食事する人や釣りをする人など周辺の文化が再び盛り上がる。川に近い近歩行者用のロードパーク。川の流れを感じながら川流の歴史の仮設展示を見たりくつろぐ。階段内でのびのびとした半野舞台。山や川の自然を背景として演出できる唯一の劇場。

01 敷地「岐阜県岐阜市 - 長良橋」- 川湊の名残と1本道の橋



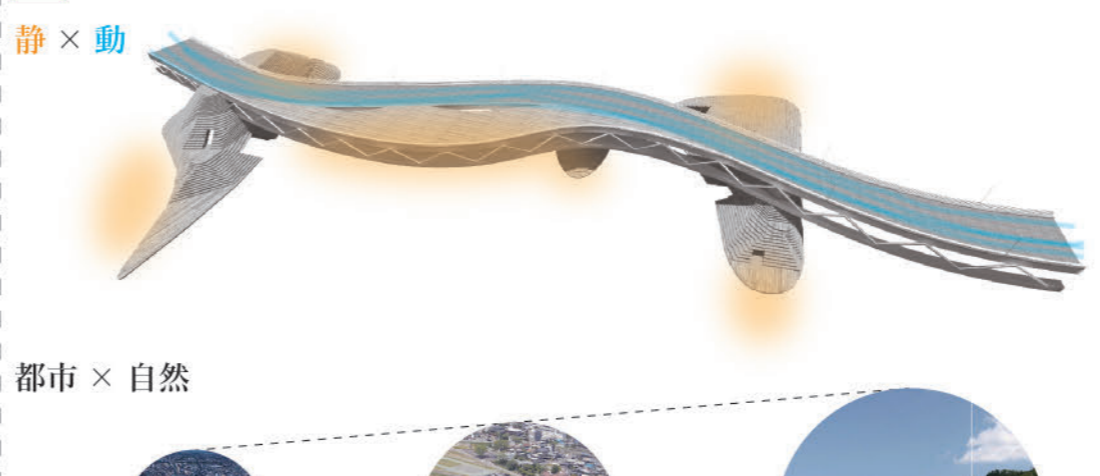
a. 川湊の文化は観光資源ではあるが、住民の生活からかけ離れている。
 b. 川によって栄えた街→川に分断された街

02 歩行量の減少-隠れたまちの賑わいを表出させる



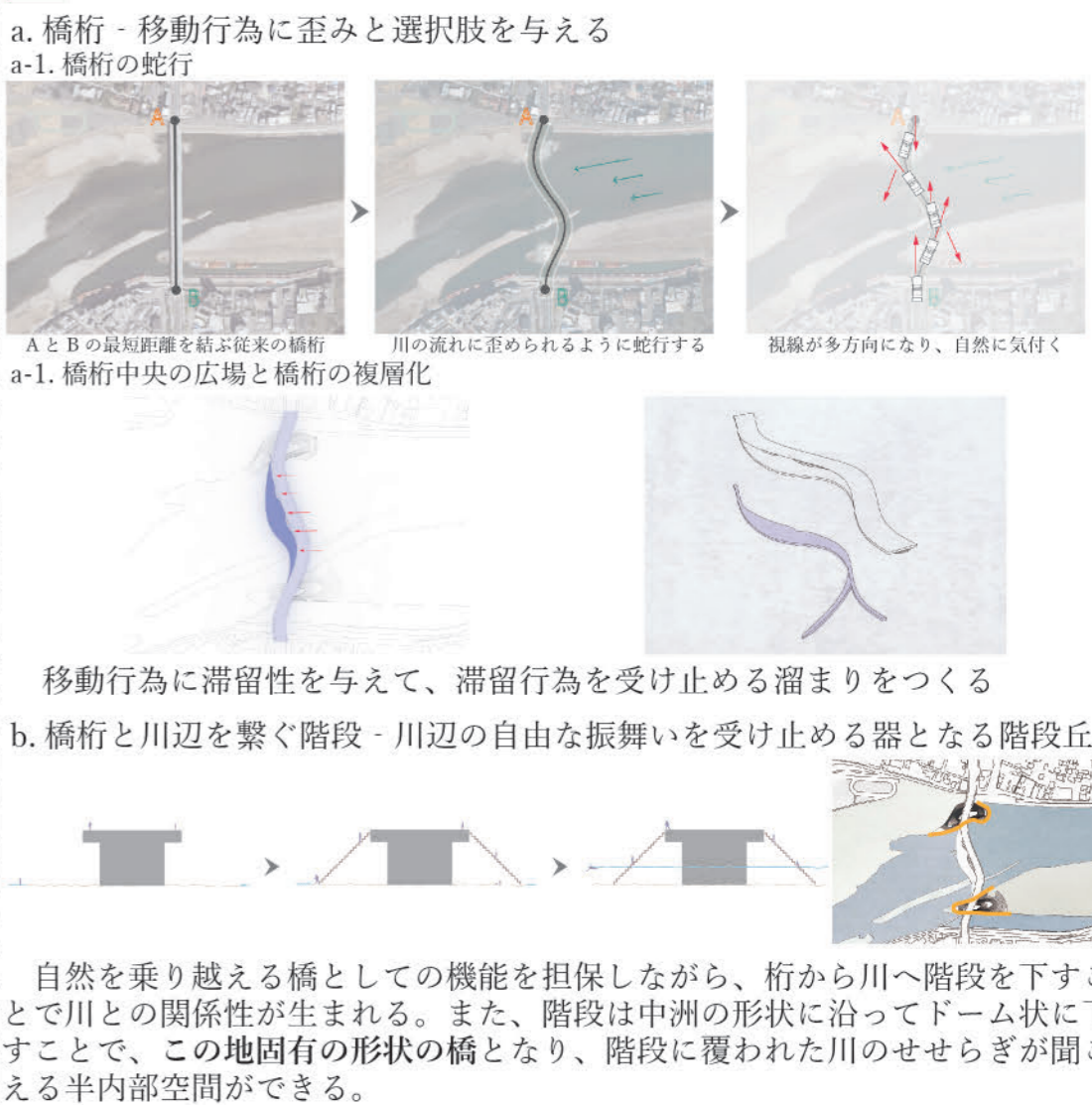
上図より、長良橋周辺をはじめ岐阜市の中心部の歩行量が減少しているのに対し、昼間人口は平衡していることから、まちの外部の賑わいが建物内に内在化していることがわかる。
 そして車社会の中で、建築や場所が目的化したことで、都市の全体像やランドスケープを感じられる、ふらっと立ち寄れるような魅力的な外部空間が失われている。
 また、岐阜シティタワーをはじめ、場所性のないような駅前開発がうまくいっていないことを考えると、車社会に寄り添う道であり、地元住民の自慢としての長良川に架かる長良橋にまちの賑わいの拠点をとりうるポテンシャルを感じた。
 長良橋を生まれ変わらせ、内に籠った人々の賑わいを外に引っ張り出し「見える化」することを目指す。

03 川の上の居場所-「静×動」と「都市×自然」の相互作用



岐阜のまちの象徴である川の上であり、異なる性格で異なる発展を遂げた南北両岸のまちを繋ぐ結節点である長良橋に居場所をつくることこそ価値がある。
 この橋では、移動行為(動のアクティビティ)と滞留行為(静のアクティビティ)が同時に起こり、相互に関係しあう。
 例えば、向こう岸に渡るために訪れた人が、川を眺めながら読書をしたり、くつろいでいる人を見て、そんなつもりは無かったのに「気持ちよさそう」と、腰をおろして一休みしてしまうような、そんな橋である。
 そして、この橋は静と動の関係で異なる性格の人々の出会いをつくるだけでなく、都市の日常生活から自然へと誘い、また自然に関わることでこの都市に思いを馳せるような、都市×自然の相互関係も促す。

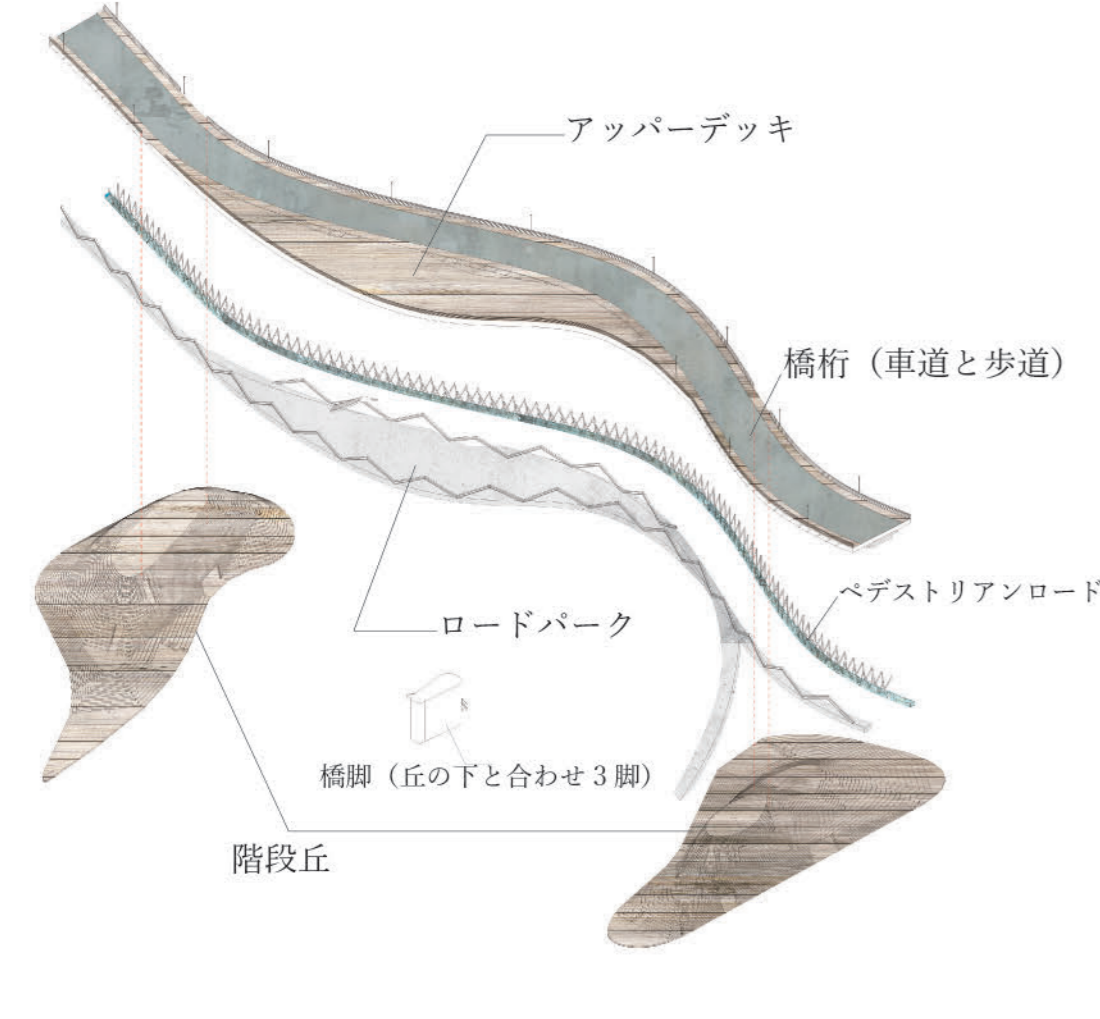
04 溜まりのかたち



a. 橋桁-移動行為に歪みと選択肢を与える
 a-1. 橋桁の蛇行
 b. 橋桁と川辺を繋ぐ階段-川辺の自由な振舞いを受け止める器となる階段丘

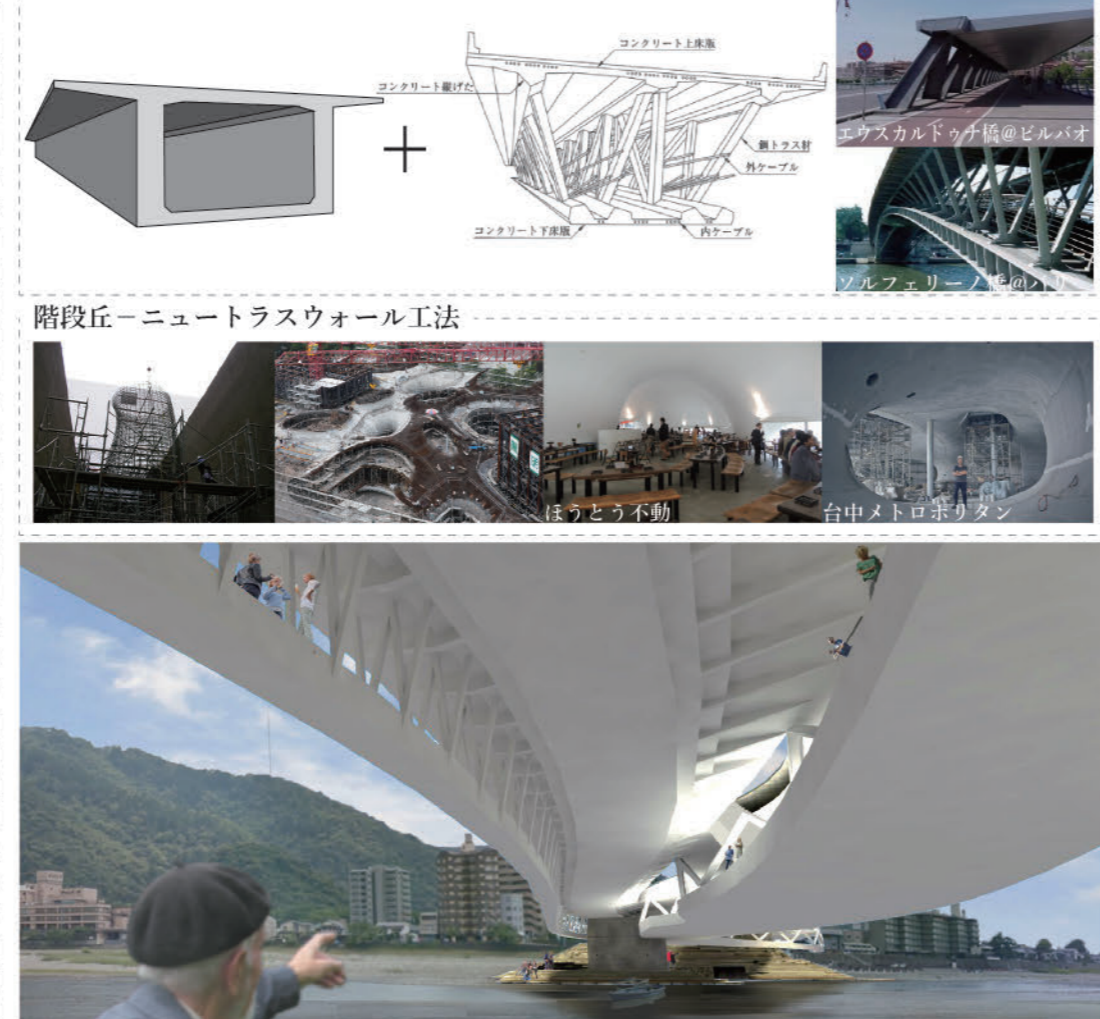
05 躯体構成

従来の長良橋より建築的な立体性があり、多様な人々のアクティビティを受けとめる器のような橋。



06 構造の検討

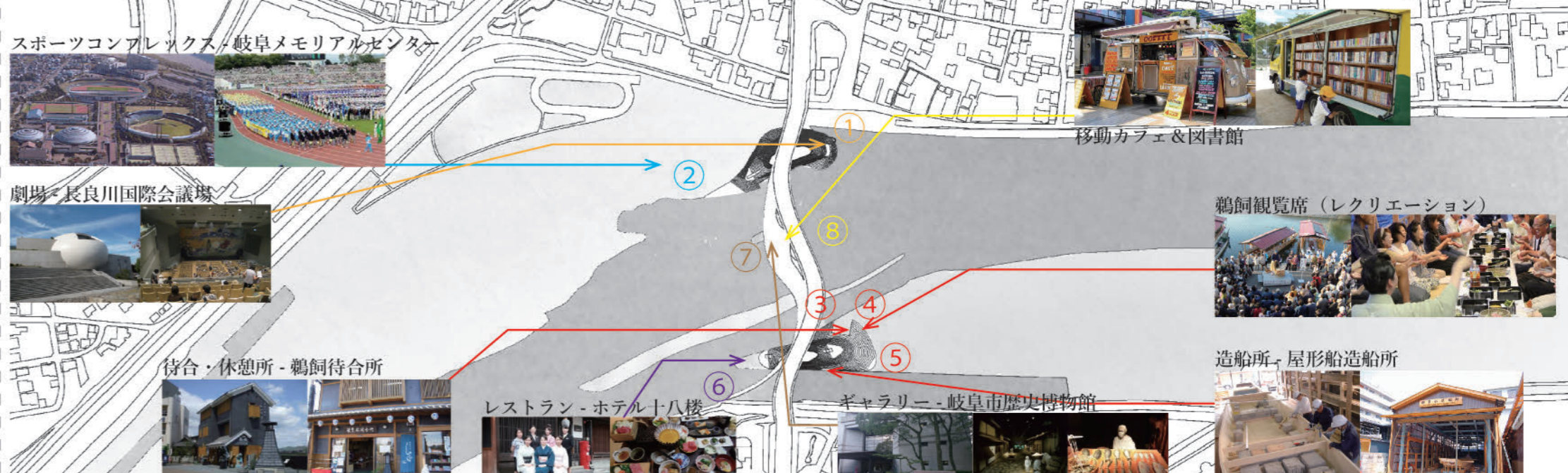
実例を参考にしながら実現可能性を探る。
 橋桁-pc箱桁形式とpc複合トラス形式の複合桁橋



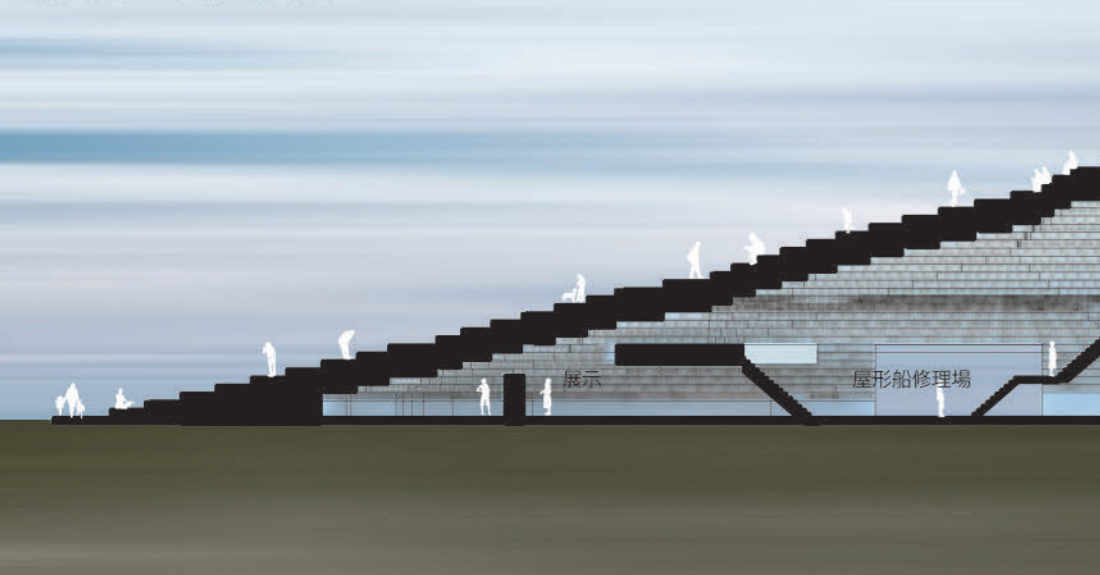
07 プログラム-一点化する賑わいを引き寄せる

周辺の専門的かつ目的性の高いプログラムを、敷居が低くローカルな形でもつくる。観光客も地元住民も日常的に使う、非日常的な場をつくる。

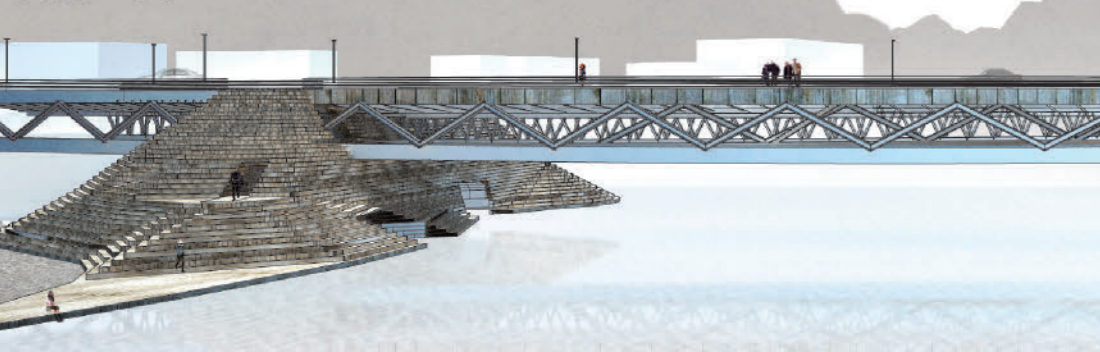
| No. | プログラム | 引き寄せるプログラム+場所 | 橋における場所 | 備考 |
|-----|-----------------|---------------------------|---------------------|--|
| 1 | 半野外劇場 | 劇場-長良川国際会議場 | 北側階段丘内部 | 山や川を背景に演出できる階段舞台。壁が無いときは、テラスのように気持ちの良い半野空間となり解放される。 |
| 2 | スポーツ観戦席 | スポーツコンプレックス-岐阜メモリアルセンター | 北側階段丘外部&周辺川辺 | 既存のテニスコートやトラックを活かし、小グラウンド整備する。それらの観戦席として使われる。水遊びする子供もいる。 |
| 3 | 鶴岡受付待合所 | 待合・休憩所-鶴岡待合所(移転) | 南側階段丘内部 | ただ伝統的な家屋のような外装の待合所ではなく、鶴岡が待ちどわするよう階段丘内部で川に囲まれた待合所。 |
| 4 | 鶴岡観覧席(レクリエーション) | なし-なし(新設) | 南側階段丘内部&外部 | 川岸で手探りで行っていた鶴岡の事業説明レクリエーションのための場を待合所に設ける。また今までなかった観覧席を設ける。 |
| 5 | 鶴岡屋形船修理調整所 | 造船所-屋形船造船所(出張所) | 南側階段丘内部 | 造船所が少なくなったところあり、修理調整所ができれば職人が逐一作業できるような。観光客はそれを見学できる。 |
| 6 | 川レストラン | レストラン-ホテル十八楼 | 南側階段丘内部&外部 | 森カフェならぬレストラン。提供元のホテル十八楼で本格的な調理がなされる。簡易的な調理は階段丘内部で行う。 |
| 7 | 川流の歴史資料展示(仮設) | ギャラリー-岐阜市歴史博物館 | ロードパーク | このエリアの歴史は水運など長良川に負うところが多い。現在の長良川上で仮設展示がなされる。 |
| 8 | 川の上カフェ&図書館 | 移動カフェ&図書館-なし(アッパーデッキの使い方) | アッパーデッキ | 移動カフェ&図書館が併設し営業している。それ以外にも多様なプログラムが入り込む。 |
| 9 | 公園(オープンスペース) | なし(オープンスペース)-周辺の公園 | アッパーデッキ、ロードパーク、階段丘上 | 移動行為のほか、様々な溜まりができて、訪れた人々はしぜん対峙し自由に振る舞う。 |



断面図-南側階段丘



西側立面パース



平面図

